

令和6年度

# 講評と対策

入学試験問題

四天王寺高等学校

# 国語

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

一 『村の社会学—日本の伝統的な人づきあいに学ぶ』  
評論：鳥越皓之（ちくま新書）

36点

現代社会において、地域社会で生きるための知恵を身に付けさせる平凡教育に対して筆者が抱く期待を読み取る。

二 『藍色ちくちく—魔女の菱刺し工房』  
小説：高森美由紀（中央公論新社）

39点

進路に悩む高校生が、菱刺しを通して、自分の進路や、さらには父親との関係を見直していく過程を読み取る。

三 『土佐日記』  
古文：紀貫之

25点

自らの船出に際して作者が思い出した阿倍仲麻呂の故事の内容と、故郷と異郷の情景についての異同を読み取る。

## 各問題講評

### 【一】評論

- 問一 c「鼓舞」は語の意味から分かっていないと思われる解答・空欄が多かった。(a95%, b80%, c50%)
- 問二 A「擲論」は文脈のみで判断した「軽蔑すること」の誤答が多かったが、語意問題は、辞書上の意味が優先されると心得てもらいたい。(85%)
- 問三 直前にある「非凡教育」の定義である「仲間うちで順序をつける」という表現で答えようとして、傍線部後半「虜」の説明に関係する「他人より卓越」「そればかり考えている」ということまで説明できていない解答が多かった。(40%)
- 問四 直後の「リーダーとして自分の意見をもって行動するためには非凡教育が必要」と併せて近代社会の性質を捉える。(95%)
- 問五 「全面的な評価」の意味を捉える必要があるが、傍線部に込められた筆者のマイナス評価ばかりを読み取ったらしく、イの誤答が多かった。普段から先生に自分たちの評価をすべて決められているという不満があつて誤答したか。(75%)
- 問六 傍線部直後に「カワオは～平凡教育の大切さを主張」とあるから、カワオは「共に生きていくための知恵(※問十)」の修得を良しとしていると考える。そこから、ワカメの「かかけこは～好きではない」という不参加希望の表明に対して、カワオの「紅白まんじゅうをもらえるから、そっち(=参加)のほうがいい」という発言内容は、カワオが意図したことでないとしても、結果的に集団活動への参加を推奨する、平凡教育に沿ったものになっている。(20%)
- 問七 空欄直後「自分の役割を一生懸命果たしていないことを叱り」から考える。(95%)
- 問八 「希望的観測」とは希望する結果を期待しながら、物事を都合よく推測することを指す。筆者は傍線部③で現代社会の問題点を挙げ、その直後でその解決策は「平凡教育をもっと活す」とことごとく述べておき、これが筆者の希望する社会の姿に繋がる。(70%)
- 問九 傍線部「大にまで言ったこと」が、直後に「このような徹底した非凡教育」と説明されていることを考えると、「奥さん」がやり過ぎていることが「笑い」になっていると分かる。やり過ぎという点では、ウ「かむしやら」も当てはまるが、「奥さん」の行動に「努力」は見られないし、「奥さん」は「非凡教育論を担う人」とは言えない。(65%)
- 問十 誤答としては「人とのつき合い方や、農山漁業のための知識や技術など」が多かったが、傍線部で問われているのは、現代社会の求められる教育であり、それは「農山漁業」に関することに限定されない。「目上の人～多様な知識」の部分から字数内の部分を抜き出している答案もあつたが、並列された具体例を二つ程度部分的に切り取っても意味はない。(55%)

### 【二】小説

- 問一 c「擦る」を「刷る」「削る」とする誤答が目立った。(a85%, b88%, c47%, d99%)
- 問二 リード文と第一文から菱刺し工房のお土産のアンゼリカを契機に父が不満を覚えたこと、傍線部直前の父の発言から縁が進路を決めねばならない時期であること、直後の一文から父が縁は菱刺しに通じているかと思われていることを読み取る。(95%)
- 問三 「カタブツ」の父の行動に「恐怖」を覚えたことであろうエの誤答が多かったが、家族関係からして恐怖の感情は当たらない。(70%)
- 問四 「揚げ足を取る」にある相手への皮肉・非難のニュアンスの含まれないアの誤答が目立った。(75%)
- 問五 象徴とは、形のない抽象的な思想・観念などを、具体的な事象や形象に託して表現すること。目に見えない父の性質を目に見える物で表したものをさがすことになるが、父の性質が分かる行動を答えた誤答が多かった。(73%)
- 問六 抜き出し部分は合っているが、末尾の句点抜きの減点を受ける答案が多かった。二文から成る箇所は抜き出しであるから、一文目の句点は含めておいて二文目の句点は含めないという具合が悪い。また、傍線部直後の、場の雰囲気や述べた部分を解答した答案もあつたが、設問に沿えば場の説明ではなく、菱刺しそのものの説明部分を抜き出すべき。(67%)
- 問七 「この返事」の内容を直接に示す部分がないため、内容を思い浮かず空欄のままの答案が多かった。問六で問うた「家族や大切な人に温かな着物を着せた」という菱刺しに込められる思い、菱刺しを通して父との関係、極めつけは傍線部を含む意味段落にある、より子さんの指導に対する縁の「やり直せるんですか。よかったです」という発言から、キーワードが「やり直し」と分ればよい。「この返事」に背を押されるようにして、仕事で苦勞しているのだから父が自分が刺した菱刺しを渡して、父との関係においてやり直し」ができたという本文全体の趣旨を読み取る。(20%)
- 問八 直前にある、縁が発した父への心ない発言とそれに対する父のうろたえという反応、そして「父に似ている」の記述から、傍線部の「痛み」は、縁自身が物理的に感じた針による痛みというだけでなく、父自身が発した言葉によって被った痛みでもあり、さらには父を傷つけたと分かった縁に返ってきた精神的な痛みでもあると読み取って選択肢を選びたい。(68%)
- 問九 A・Dの誤答が多かったが、どちらも「残念なこと」が分かる語句についての説明なので、内容の精査をせずに、どちらかを選ぶべき良いと考えたか。Cの、縁が「何事にも真面

目で融通のきかない頑固な性格」で父と似ているとする点が誤り。(40%)

- 問十 誤答としては、「娘が刺したネクタイ」のみの、結局それをどうしたのかまで表せていない答案や、「娘が刺したべこの模様」等、父が柄のアーベルをどうしたに過ぎないという内容の答案が見られた。また、傍線部直前の父の上司に関する記述から推測したらしい「父の仕事がうまくいったこと」という拡大解釈した答案も見られたが、本文からは本当にそうだったかどうかは読み取れない。ここは傍線⑤「締めないでうろたえ」と思っていたところ、「結果は」は「締めた」ということを言えばよい。(75%)
- 問十一 「ひそかに」の意味が欠落したアの誤答が多いと踏んでいたが、実際はウの誤答が多かった。「愛すべき器用な父の意思表現を見守る母親」というありがちな情景に寄せた流されたか。語意の問題は、文脈よりもまずは語意から判断すべき。(40%)
- 問十二 問五・問九・問十でも考えた父の性質を正しく述べたイが正解。アの縁がする賢いとする点、ウの母が中心人物とする点、エの両親が穏やかかつ大らか奔放とする点がそれぞれ誤り。(80%)

### 【三】古文

- 問一 Cで昔話が終わると捉えた誤答が多かったが、C直後の「かの国人」が「唐土」の人であり、また阿倍仲麻呂の昔話が繰と読み取りたい。(50%)
- 問二 語句の意味は文脈判断にお概ねよんでいた。比較②の正答率が低いが、②のかかっている傍線部③「二十日の夜の月出づるまでぞあけける」の解釈を問三の高い正答率から考えると、もっと正答が出て良かった。(②70%、④90%、⑦90%)
- 問三 「二十日の夜の月出づる」とは、冒頭にもある通り、その月の二十日の晩に月が出たということ。理科の知識を用い、例えば、十五夜の月(満月)の月の出よりも後の時間に二十日の月が出る。選択肢がすべて「宴會」という主題で始まり、その宴會がその時間まで「あけける(=あった/続いた)」と読み取りたい。(80%)
- 問四 読み問題は概ねよくできていた。誤答としては「かうよう」と、あと一息足りないものが多かった。(90%)
- 問五 百人一首でも有名な和歌であるから、「春日」を「春の日」としたアウを選んだ解答は少なかつたが、エの誤答は多かつた。この歌は仲麻呂が異国の地にあって望郷の念を詠んだものであり、エに関しては「青海原を見渡すと」を受ける部分がなく、「青海原を見渡すと」「山に月が昇っている」という矛盾をはらむ表現が生じていると気づくべき。(75%)
- 問六 古文特有の息の長い一文に慣れていれば、傍線部の主語が四行前の「仲麻呂のぬし」ということが読み取れる。(85%)
- 問七 アの誤答が多かつたが、問五で読み取ったように、仲麻呂の望郷の念を解答の中心に据えたウが正解。アは歌の主題が「月の美しさ」ということになり、「青海原」と「春日」なる三笠の山の対比が活かされていない。(70%)
- 問八 「月の影は同じことなる」という誤答が多かつたが、それは問七の「異国の人による共感」が可能な理由を表す部分であること、問六の「波より出て波にこそ入れ」に注目すべき。XもYも、故郷(=都)では月が山から出てきたが、同じ月でも異郷(=X唐土、Y土佐)では海から出てきたということに発見=感動がある。四行目の「月は海より出でける」は問一で明らかにした阿倍仲麻呂のエピソード中の月の姿であり、Yを詠む際に筆者が見た情景には当たらない。(30%)

## 次年度入試 アドバイス

四天王寺高校の入試問題では、例年長文を出題していますので、演習の際は記述問題まできちんと書いて、時間内に解答する力をつけてください。本文が長いということは「具体例一筆者の主張」「登場人物の心情や関係の変化」を、多くの情報のなかから掴み取る力が要求されます。傍線部の近くだけを見て「とりあえず解答する」のではなく、傍線部ことばの意味を突き詰めて考え、設問で要求されていることは何か(心情を答えるのか、理由を答えるのか、性質を表す「～的」の語なのか、物の名を表す名詞的な等)に注意して、設問をヒントに筆者の「言いたいこと(主張)」を読み取り、時間はいかに使って解答する練習を積み重ねておきましょう。中学生の話し言葉では使われない抽象的な概念を表すことばを用いた文章も出題していますので、新聞のコラムを読んで、現代社会の問題について考えたり、教科書で習った作家の他の作品を読んだりして、話し言葉以外の文章や少し古い言い回しに慣れてください。文章を読むスピードは、読書量に関係します。いろんな種類の文章に親しみ、辞書を用いて語彙を豊かにしてください。古文では中学校の教科書で習った古い言葉は出題していません。教科書に掲載されている古文を繰り返し音読することで、長い一文の中で主語の変更が起こる古典的文章に慣れてください。音読は最も有効な古典学習法です。

# 数学

## 問題内容

配点  
(100点中満点)

## 出題の意図

1. 計算問題	20点	基本事項(式の計算・因数分解・式の値・2次方程式の解)の確認。
2. 小問集合	17点	基本事項(1次方程式の文章題・データの分析)の求値。
3. 平面図形	15点	円の性質と三平方の定理を用いた求値問題。
4. 2次関数	16点	2次関数のグラフと面積。
5. 確率	16点	引いたカードの数が条件を満たす確率を求める。
6. 空間図形	16点	正四角錐を切断してできる面を把握し、平行線を引いて線分の比を求める。底面の比から体積比を求める。

## 各問題講評

全体として、約65%の出来具合でした。

- 75%の正答率でした。(1)(2)の正答率は95%で、式の計算や因数分解はよくできていました。一方、(3)の正答率は40%と低く、無理数についての理解が必要です。(4)は  $a=-6, b=5$  という誤答が多く見られました。1つめの方程式の解の和と積は求められていましたが、それらを2つめの方程式に代入して連立方程式を解くことができず、そのままaとbとして答えてしまったようです。
- 75%の正答率でした。  
[1] 正答率95%とよくできていました。  
[2] 新課程で中学範囲となった四分位数の基本問題です。正答率65%でした。㊦ ㊧はできていましたが、㊨の点数の推理は22,23という誤答が多く見られ、正答率は30%にとどまりました。平均値が下がったことから求める値は25以下であることを踏まえ、四分位範囲が3.5kgとなる値を求めましょう。
- 円の性質と三平方の定理を用いた求値問題です。円の性質として、接線の長さは等しいこと、円の中心と接点と結ぶ線分は接線に垂直であることから、 $30^\circ, 60^\circ, 90^\circ$ の三角形を見つけましょう。(3)は三角形QORが正三角形であることから点Pが求める円の中心になっています。
- 2次関数のグラフと面積の問題です。(1)(2)は1次関数と2次関数の基本的な求値であったので、(1)の正答率は90%(2)の正答率は75%とよくできていました。(3)はABを底辺と考えると、高さが等しくなればよいので、 $CO=CQ$ となる点Qをy軸上にとり、点Qを通り直線ABに平行な直線を引くと、この直線と放物線①との交点がPとなります。
- 同じ数字が書かれたカードを含む確率の問題です。正答率は(1)70% (2)50% (3)30%でした。見た目が同じものでも、確率を考えるとときには区別して考えなければならないことに注意しましょう。
- 正四角錐の切断面から線分・体積の比を考える問題です。正答率は(1)70% (2)25% (3)20%です。(1)は三角形PACにおいて中点連結定理からMHとPCが平行であり、MHはPCの半分である

ことを用いて比を求めます。(2)①はHを通り、CGに平行な直線を引くことがポイントです。②では三角形PGFと三角形PAHを四面体それぞれの底面と考えることで高さは共通となり、求める体積比は、三角形PGFと三角形PAHの面積比と等しくなることに気が付きましょう。

## 次年度入試 アドバイス

例年、中学1年から3年までの全分野より偏りなく出題し、「正確な計算力を身につけているか、基礎事項を理解しているか、題意を読み取り論理的に考えていくことができるか。」などをみる問題を作成しています。正確な計算力と柔軟な思考力が試されるので、すばやく計算する練習とあきらめずじっくりと考える練習を2つの柱として準備をしてください。

三角形の合同、相似、面積、文章から連立方程式や2次方程式を立てて解く問題、立体図形、2乗に比例する関数、場合の数と確率、円周角の定理、三平方の定理などは比較的よく出題されているので、特に力を入れて勉強しておきましょう。

ただし、難問を練習する必要はなく、標準問題を中心にごのような基本的事項が使われているのかを確かめながら勉強しておくことが最も有効な対策です。ケアレスミスにも注意しましょう。「部分は全体より小さい」「長さ・面積・体積は正の数」ということを意識し、「文字は正しいか」「符号は正しいか」「累乗は正しいか」「比の左右は合っているか」「最後まで因数分解できているか」「聞かれたことに答えたか」に気をつけてください。

最後に、過去の問題を研究する際には、時間配分に十分注意し、配点はどの問題もほぼ均等なので、まず計算問題と各大問の(1)、(2)を確実に正解していきましょう。入試当日を想定して時間を測って演習しましょう。



# 英語

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

I 長文(物語)	22点	英文読解と内容把握力をみる
II 長文(エッセイ)	24点	英文読解と内容把握力をみる
III 会話文	20点	対話形式の文の読解力をみる
IV 英作文	12点	英文の構成力をみる
V 2文同意	8点	単語力と表現力をみる
VI 整序	6点	英文の構成力をみる
VII 語彙	4点	単語力と表現力をみる
VIII 発音・アクセント	4点	音声の定着度をみる

## 各問題講評

- [I] 絵が好きな少年の物語。正答率65%程度。誤答が多かった問題としては、問1“Everyone he knows thinks this is strange.”をthisが何を表しているのか明確にして日本語に直す問題で、波線部を「彼が知っている人はみな」とするべきところを「彼を知っている人はみな」という誤訳、もしくはthisの内容のみを解答する誤りが多かった。問2 ①の並べ替えについてはTheo decides to pay no attention to the man. とtoが2つあることで苦戦している様子が見られた。問8については、(い)(う)の後に同じhis headという表現が続くため混乱したようであった。
- [II] 我々が口にする食品はどのような過程を経て提供されているのか、また環境等を考えた時にどのような取り組みが考えられるのかに関する文章。正答率70%程度。問1に関してはmostを副詞として捉える誤答が目立った。その他の記号問題はある程度できていたが、問6で「オ」を選ぶ誤答が多かった。“modern energy systems”ではなく“modern farming systems”のおかげで様々な地域の食品を手に入れられている点に注意。
- [III] 80%程度と正答率は高かった。
- [IV] 正答率60%程度。日本語のメモに即して、英文原稿に合う形で解答が求められるが、日本語もしくは英語のみから判断して解答した結果、誤答につながっている間違いが多かった。例えば②ではSuch services give youに続く自然な表現としてはthe chance to learn等が考えられるが、I can learnのような誤答が見られた。
- [V] 正答率75%程度。1.“During my stay”が正解のところ、“During I stay”と「前置詞during+所有格+名詞」の形にできていない誤答が目立った。2.及び4.は時制の違いが多く、

3.はhave becomeの誤答が多かった。状態を表す現在完了なのでhave beenが正解。

- [VI] 正答率60%程度。2. No other student in the class is as tall as Takuya.のin the classの位置が難しかったようで正答率が低かった。3.についても無生物主語の構文に慣れていないようで誤答が多かった。3.のような英語独特の表現に慣れる必要があるだろう。

- [VII] 語彙 及び [VIII] 発音・アクセント 合わせて45%程度の正答率。語彙の問題については、基本的な 1.umbrella、2.astronaut、3.ninthの綴りの間違いが多かった。[VIII]は単なるアクセント問題と捉えた受験生が多かったようで、正答率が低かった。問題文を正確に把握する必要がある。

## 次年度入試 アドバイス

まずは教科書の単語や文法、例文を確実に覚えましょう。覚えた文章や単語を音読することはもちろんのこと、実際に書いてみて正確な綴りを身につけて下さい。基礎を固めた上で多くの英文を読みましょう。英語独特の表現に慣れておくことも英作文等に取り組む際に大切です。読解においては、テーマについての知識があると、その英文が一層読みやすくなります。普段からの読書はもちろん、新聞等に掲載されている様々な話題に関心を持ち、知識を増やしましょう。

# 理科

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

1 物質の性質と化学反応	25点	与えられた情報を整理し、自身のもつ化学的知識と合わせて考える力と、グラフに表す力を問うた。
2 気象と湿度の求め方	13点	身の回りの現象から天気を読み取る力と、与えられた条件から湿度を考える力を問うた。
3 光の性質	13点	光の基本的な性質について、鏡と凸レンズの実験から結果を考察する力を問うた。
4 植物や動物のつくり	25点	問題文の情報を読み取ることと、身近な植物や動物の観察を通し、体のつくりについての基礎的な知識を問うた。
5 太陽の動きと日時計	12点	天体の動きと季節の変化とを日時計を題材にして、南中高度や時刻などについて、知識と考察を総合的に問うた。
6 電磁石と仕事	12点	電流と磁力について、基本的な実験から結果を考察することと、仕事の原理について条件を読み取る力を問うた。

## 各問題講評

- 知識を問う問題はよくできていたが、知識を用いて思考し、答えを導くことができていなかった。計算結果を用いてグラフを描いたりする等、日頃から主体的に思考してほしい。
- 用語の暗記はよくできていたが、計算や、複数の情報を的確に読み取って図示することができていなかった。
- 凸レンズの焦点距離については正答率が高かったが、像の向きについては誤答が多く見られた。実際の鏡の映り方などは日常の中でも体験できるので、興味をもって観察してほしい。
- 知識を問う問題については正答率が高かった。ドジョウの呼吸については問題文から読み取って答えを導くことができていなかった。また、実験条件を文章やグラフから読み取る問題については誤答が多く見られた。
- 与えられた情報に対して、学習した知識を適切に活用できず、誤答が多く見られた。日時計のしくみを文章から読み取って時刻を求めたり、図を描いて太陽の方向から南中高度を求めたりができていなかった。
- 電磁誘導や圧力はよくできていた。電流の大きさを求める問題では、残念ながら計算ミスが見られた。ブロックでピラミッドをつくる問題では、操作の意図の理解が乏しかった。

## 次年度入試 アドバイス

以下に理科の対策を列挙しておくので、しっかり準備してください。  
☆中学の理科で学ぶ重要な「用語」、「単位」などを正確に理解する。特に「用語」は漢字で答えることを指定される場合が多い。記述では用語を的確に使い、誤字脱字に注意する。

☆実験や観察に関する問いが多いので、教科書で扱われている実験については、実験操作の意味を理解し、データの処理、グラフの作成や読み取り、計算力をつける学習を大切にしてほしい。

☆化学式や化学反応式は正確にかけるよう練習を積み重ねてほしい。

☆考察する問題では、必ずそのヒントが問題中に含まれている。問題文をしっかり読み取るトレーニングをしてほしい。

☆実験や観察には積極的に参加し、生活の中で体験する身近な現象などに、日頃から関心をもつよう心がけることも大切である。

# 社会

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

1 地理分野	20点	世界各地の第一次産業について出題した。
2 地理分野	10点	日本の各地域のようすを理解できているかを第一次産業について出題した。
3 歴史分野 (日本史分野)	8点	世界文化遺産に登録されている日光東照宮に関するリード文から、江戸時代の政治・社会経済・文化について出題した。
4 歴史分野 (日本史分野)	12点	上野恩賜公園に関するリード文から、近世・近代・現代の内政・外交・文化について出題した。
5 歴史分野 (世界史分野通史)	20点	昨今の不安定な世界情勢を鑑みて、とりわけ、近現代に発生した事件や紛争・戦争などをテーマにすえ、出題した。
6 公民分野 (現代社会、政治)	10点	現代社会や政治の特徴について出題した。
7 公民分野 (時事問題)	20点	2023年の出来事に関する時事について出題した。

## 各問題講評(具体的に)

- 1 第一次産業に焦点を絞った問題であり、世界の地理についてであったが、単純に語句を記号で問う問題についてはよくできていたが、語句を記述させる問題では丁寧に覚えていないため、覚え違いも見られた。また、データから読み解く問いではあまり芳しくはなかった。
- 2 日本の第一次産業についての正誤問題だけで構成された問いであったが、しっかり内容を把握し学習している生徒とそうでない生徒と大きく差があった。
- 3 問1と問2の正答率が特に低かった。問1は江戸時代の交通や産業の基本的な内容理解を問うものであったので想定外であった。
- 4 問1、問2、問3iiiの正答率が低かった。問1は明治初期の基本問題、問2は戦後史、問3iiiは日中関係の年代整序であった。いずれも受験生が苦手とする分野であるが、高1では近現代史を中心とする「歴史総合」を学習するので、しっかりと復習しておいて欲しい。
- 5 問1の正答率が低かった。今回の入試では、近現代の出題を多くしたが、その対策まで手が回らなかったのかもしれない。少なくとも、各時代における世相とそれに関係する事からの正確な結びつきは身に付ける必要があると思われる。
- 6 問1、問2、問3の正答率が特に低かった。現代社会についての分野についてもしっかり学習してもらいたい。
- 7 問1、問7の記述の問題の正答率が特に低かった。誤字も多かった。問8の正答率も低かった。

## 次年度入試 アドバイス

### 1・2【地理分野】

第一次産業は農業だけでなく漁業や林業も含まれていることを念頭においておくこと。また、世界地理では生産量のデータからグローバルな視野を身に着けるよう学習してください。そして、用語の暗記だけに頼らず、その内容や意味を逆に答えられるような学習をして下さい。

### 3・4【歴史分野 日本史】

歴史はいわゆる「暗記科目」ではありません。歴史用語の単純な暗記ではなく、教科書をしっかりと読み込んで、時代の特徴や出来事の因果関係などを理解することに努めてください。学習するときには、図版や史料・グラフにも必ず目を通すようにしてください。また、過去問にも必ず取り組んでください。

### 5【歴史分野 世界史】

①教科書をしっかりと熟読し、時代(年代)と地域(国)の特徴を把握・理解することに努めましょう。

②教科書や副教材に掲載されている年表・写真・史料・グラフには必ず目を通しましょう。

③①、②を念頭に学習を深め、おおよその歴史の流れを直線的のみならず、広い視野で全体を把握するように努めましょう。歴史学習は、コツコツ積み重ねていくことが肝心です。

### 6・7【公民分野】

現代社会についての分野、政治的分野、経済的分野も教科書の本文だけでなく、注釈・欄外・表・グラフ等も含めてしっかり学習しておいて下さい。時事問題に関しては普段からテレビのニュースや新聞などに関心を持って、学習を深めて欲しい。その際、日本と世界の両方の出来事に関心を持って欲しい。

### 【全般】

地理分野・歴史分野・公民分野を全体的にバランス良く学習することが求められる。普段から教科書だけではなく、地図帳・資料集・新聞なども活用して、幅広い知識を身につけるような学習をして欲しい。